

訂 正

下記の通りそれぞれ訂正致し、著者並びに読者諸兄へ深く御詫ひ申し上げます。(編集部)

15巻12号(昭和32年12月号)

☆家族性非溶血性黄疸に関する一考察

三楽病院 高 木 八 郎

88頁右上から3行～5行目

- (誤) しか患が溶血性で徴候及び肝臓の状態が満足され、は、本疾も本疾患の諸あることに異論はないわけである。敢えて
- (正) しかも本疾患の諸徴候及び肝臓の状態が満足され、は、本疾患が溶血性であることに異論はないわけである。敢えて

94頁右上から13～15行目

- (誤) 伴よる貧血の結果、酸素供給が不足となり、必然的に肝機能、溶血に能が
- (正) 伴い、溶血による貧血の結果、酸素供給が不足となり、必然的に肝機能が

16巻1号(昭和33年1月号)

☆糖尿病のコントロールとは何であるか

九州大学 平 田 幸 正

70頁左上から13行目

- (誤) 醋酸鉛 (正) 醋酸塩

☆[座談会] 美容医学の批判とその対策

161頁 写真1と写真2が入替る。

すなわち、ハイドロキノン含有クリームによる障害は(写真2)、ストロンチウムによる障害は(写真1)。